

第6回(昭和49年度)日本映画照明技術者協会 照明技術賞

劇映画部門	技術賞「人斬り舎弟」	担当 大野忠三郎(東映支部)
CF部門	技術賞「人間とスパイス」	担当 飯塚 茂(映放支部)
非劇映画部門	奨励賞「迎賓館」	担当 松野 要(新宿支部)
TV映画部門	本年度出品作なし	
特撮映画部門	該当作品なし	

劇映画部門「人斬り舎弟」 東映作品



東映支部 大野 忠三郎

大正13年9月6日生

昭和25年 大泉スタジオ入社。
昭和26年東映東京撮影所入社、第一
回担当作品、昭和38年「はるかなる
母の顔」(監督小石栄一・撮影三村
明)にて担当者となり現在に至る。

選定理由:「人斬り舎弟」の照明はアクション映
画に於いての照明が製作日数、製作費の制限など
劣悪な条件のもとで作業され粗雑になり易いが、
この作品ではこれらの悪条件を克服し、セット、
ロケ全編にわたり一貫して適切な配光をなし、演
出意図を助け、撮影効果を盛上げた技術は、不断
の研鑽と努力の成果であって、本年度照明技術賞
に値するものと認める。

劇映画「人斬り舎弟」照明スタッフ

小林芳雄、稲葉好治、三浦英治、飛田博文、
石川末八、田中耕治、斎藤警信

選定理由:貴方は「人斬り舎弟」照明スタッフ
とし担当技師の意図をよく理解し、種々の悪条件
を克服しもって技師を助け優秀なる映像をつくり
あげた努力は賞讃に値するものと認める。

「資料」

“照明意図”“現場報告”等は第5号に詳述され
てあるので省略します。



写真左より斎藤警信、三浦英治、飛田博文、小林芳雄、松野
要、大野忠三郎、田中耕治、飯塚茂、磯崎英範、石川末八、

CF部門「人間とスパイス」

TPC 制作

映放支部 飯塚 茂

大正11年10月24日生



昭和22年4月東宝入社、同25年12
月退社フリーとなり、昭和33年PR
映画「東芝59」で担当者となりチョ
ンリマ、広島証人、恋は緑の風の中、
その他を担当し現在に至る。

選定理由:「人間とスパイス」の照明は製作意図
をよく理解し、綿密な照明設計のもとに、短時間
に於いて商品の歴史、価値を表現し、商品、人物、
雰囲気融合させ優れた映像をつくりあげた技術
は本年度の照明技術賞に値するものと認める。

CF「人間とスパイス」照明スタッフ

渡辺勝治、高木広志、松尾岳史

貴方は、「人間とスパイス」照明スタッフとして、

担当技師の意図をよく理解し、渾然一体となって
よく技師を助けもって、優秀なる映像をつくりあ
げた努力は賞讃に値するものとする。

「資料」

人間と深いかわりのあるスパイス(香辛料)の
利用は広く、種類も大変多い。日本の食生活も豊
富になり、スパイスの知識が今は料理人だけでな
く一般化して来たようです。

この作品はS & B社の全商品の紹介とスパイス
の歴史を短い尺数の中で理解を得るように努めま
した。

古代の人間生活……資料を参考にした手作り
の小道具は、画面ではめだたなかったが、作品の
よりよい効果をあげることが出来たと思っています。
照明は、リアルに、とくに苦心したことな
かったのですが、全商品のラストカットは原料や
商品がこまかいので、ひとつひとつの光の強弱に
手間どり、一坪位の広さのライティングにスタッフ
がせいはいっぱいがんばって、3時間位かかりました。

奨励賞

非劇映画部門「迎賓館」

シネジャーナル社 制作

新宿支部 松野 要

昭和13年12月12日生



昭和35年高橋照明入社、杉山電機
NHK映画部を経てフリーとなり日
活TV「海の音」で担当者となり、
松岡プロ「日本の心」シリーズの良
寛、牧水、岡倉天心、迎賓館、増上
寺などを担当現在に至る。

選定理由:記録映画「迎賓館」の照明は特殊の
建造物のため電源の配線、照明器具の配置制限等
種々の制約のもとで綿密な照明設計により華麗な
映像をつくりあげた技術と努力は、今後の技術の
向上に期待し、奨励賞に値するものと認める。

「資料」

この作品は大変気をつかう仕事で、世界各国の
国賓の方々が宿泊される建物で、国が巨額の費用
をかけた建造物のためスポンサーの方より部屋、
階段その他部屋の仕器等に絶対にきずなどをつ
けないようにと厳命されました。

スタッフは毎日毎日大変気をつかいながら仕事

を進めました。私達照明部はチーフ磯崎誠君以下
4名で、電源は50*。使えたのですが電源室が遠い
ので配線に苦勞しました。ライトはミニブルー1
K6台、ヨーソ1K10台、500W4台、計18*。で撮
影をし、部屋の中は鏡が多くライトが写るので設
置場所に苦勞しました。又外光も多いので部屋毎
にフィルターもB2、B3、B4、とを使い分けました。

選定経過

前年度の選定委員会より、選定規約を一部改正する
必要があるのではないかと提案が出されていまし
たので、各支部選出の技術委員によって選定規約改正委
員会が開かれ、改正案が作成されました。9月17日の
松竹支部幹事会において改正案が承認され、当日より
有効とされました。

昭和50年1月18日新選定規約に基づいて本年度第1
回の選定委員会が東映支部にて発足し、活動開始され
始め、まず2月12日より京橋フィルムセンターを始め
とし、東宝支部などで候補作品の試写があり、最終試
写を2月22日に東映支部にて行われました。

選定委員会は22日の午後行われ、劇映画部門では、
「砂の器」「妹」「華麗なる一族」「日本沈没」「血を吸うバ
ラ」「竜馬暗殺」「人斬り舎弟」の各候補作品の投票が行わ
れました。第1回の投票で「砂の器」「華麗なる一族」「人
斬り舎弟」の3作品が上位得点に入り、選定規約に基
いて第2回の投票が行われました。その結果東映支部
の「人斬り舎弟」が、昭和49年度の照明技術賞に決定し
ました。

CF部門に関しては、各支部ならびに外部参加の14
本の候補作品が出され、2月18日東宝支部において試
写が行われました。選定は22日東映支部にて行われ、
1回目は○・×式にて上位5作品を選定し、第2回目
の点数投票をした結果、映放支部の「人間とスパイス」
が昭和49年度照明技術賞に決定しました。

非劇映画部門では、新宿支部の「迎賓館」が1本出品
され、委員会の中で1本だけでは選定の対象にするの
はむずかしいが、大変照明技術が優秀であったとし奨
励賞に決定しました。

新選定規約により特撮部門として「ノストルダムス
の予言」が候補作品として出されました。選定委員
会としては前者と同様1本だけと云う事もありました
が、特撮は大変な仕事の内容であり、スタッフの努力
は大いに認めるが今回は見送る形となりました。

以上で今年度の技術賞選定は終った訳ですが、選定
に当り各支部会員の皆様、顧問の皆様そして外部の方
々の御協力を心より感謝致しております。